

# たたら製鉄継承の歩み

## 20周年記念誌を発刊

一関市大東町の大原小学校（佛川恒明校長）とホッパの会（勝部昌平会長）は、たたら製鉄20周年記念誌「ふるさとの歴史と文化学び 小学生の鉄づくり20年」を発刊した。同町内野地区で受け継がれてきたたたら製鉄の文化を継承しようと1999年に結成した同会と、旧内野小学校時代から取り組まれているたたら製鉄実習の歩みをまとめ、さらなる継承と発展を期している。

### 大東 ホッパの会と大原小

ホッパの会などが発刊したたたら製鉄20周年記念誌「ふるさとの歴史と文化学び 小学生の鉄づくり20年」



記念誌はA4判、一部カラー113ページ。20年の歴史を年表と関係者の寄稿、当時の新聞、学校報、市広報など

で振り返っている。いちのせき元気な地域づくり事業を活用し、210部を印刷して関係者や市内図書館などに配布した。

たたら製鉄に興味を持っていた人たちが結成。地域の歴史を知ること、郷土愛を育てようと地元の内野小に呼び掛け、児童が毎年粘土採取からレンガ作り、砂鉄採り、溶鉱炉作り、たたら製鉄までに取り組んだ。

2004年には砂鉄川たたら製鉄学習館が完成。06年の全国たたらサミットに岩手では、内野小児童が事例発表を行った。10年に内野小と大原小が統合して新大原小学校となると、教員や児童の負担を増やさないようにと同会が全面協力して時間がかかる工程を担当するようになった。

毎年なたたら製鉄実習には活動当初から参加している日本大の河野英一名誉教授と学生らのほか、たたら製鉄や製鉄の歴史に興味を持つ人が全国から60〜80人程度見学に訪れる。同会の勝部欣一事務局長は「子供らが地元の歴史を学ぶだけでなく、多くの人に興味を持ってもらっている活動なので、今後も末永く続けていきたい」と語っている。